

参加者、

浅田、石川、河原、神前、北島、
柴崎、田中、鳥飼、中島、中野、
並木、安田、山岡、吉野、

ゲスト、

吉村(元会員の)、

March 3, '96

西湘バイパス経由、
熱海峠そして沼津へ

企画担当、石川 進

BMW "RS" Club

かわらばん

例年に無く雪やみぞれが何度か降る寒い冬でしたが、三月の声を聞くと日毎に日脚も伸びて、その日の光りにも何か柔らかさを感じられ、春の訪れがそこはかとなく、我々の身近に忍び寄って来たのが肌にも感じられます。

去年の梅の咲くころに嫁いで行った娘が、彼女の木目込みの雛人形を置いて行きましたが、それが今年もまた一枝の桃と菜の花と一緒に飾られて、20数年前と同じように優しい笑みをたたえています。玄関口にはスイートピーと霞草が李朝の壺に活けられています、それらを見るといかにも春の到来が感じられます。(オマエは少々感じ易いのではないのですか?)

アメリカ人がこんな時に "Spring is just around the corner" とか言いますが、まさにそんな季節になりました。花屋の店先が段々と賑やかになる頃です。

去年の11月以来のツーリングですから、長旅前の松尾芭蕉ならずとも下準備が大変です。そして気になるのが天気のことばかり。新聞、ラジオ、TVの予報を見ては、自分の都合の良いように解釈していましたが、目を覚ましてそっとカーテンを開くと、嬉しいことに東の空が明るく茜色(あけぼの)に染まり、今年初のツーリング初めの我が前途を祝しているかのようでした。バイクを引き出していると、今年になって初めての鶯のさえずりが聞こえて来るではありませんか。これからメジロ、四十雀、鶯などのさえずりが日毎に大きくなり、桃や桜そして杏やレンギョウの花が彩りを添えてくれる事でしょう。

心もち風の冷たい中を集合地の海老名SAへと急ぎ、定刻の9時半に14台のBMWが高速道路を秦野中井ICへと飛び出して行きました。途中で何となく見覚えのある人を抜きましたが、後になってみると新たにK100LTを買った鳥飼さんで、これで合計15人となりました。

大磯の町から西湘バイパスへ入ると、目の前には未だ冬の冴々とした青さ残す海が広がり、投釣りをする人が竿を並べていました。遥かに山並みも見えてまさに一幅の絵を見る思いでした。早川より一般道を海岸線に沿って走り、有料道路を通らずに旧道へと入って、峠を上りきった眺望の良い処で休憩です。ミカンを売る小屋の前に止まると、近くで建築中の大工さんが出て来て話し掛け、「おやおや女連れかい」というのでビックリして辺りを見回すと、なんと派手なジャンパーを着た髪の毛の長い石川さんの事で、みんなで「あれはオカマだよ」と言ったりして大笑いです。名物の糖度の高い青島ミカンを買う人、試食だけの人(殆どがこれ)、そして近くで大地にコヤシを撒く人など色々でしたが、海と神奈川県道路標識を入れて記念撮影をしました。

更にそこから一走りして熱海ビーチラインへと入りましたが、走るほどに左手には真鶴半島の三つ石、そして真ん中には初島が望まれ、右手の方には翼を広げたように伊豆半島が見えました。ここまで来ると湘南では青かった海の色が、やや鈍色(にひいろ)を帯びた春の色に変わり、岸に打ちつける波も穏やかに見え、何とはなしに気持ちの和らぐのが感じられました。

熱海市内は最後の「梅祭り」を見ようとする人と車で埋まり、梅園に向かう坂道はニッチもサッチもゆかぬ混みようで、時には歩道を走り無理やりに擦り抜けて、やっと峠の上に出ました。梅の方はもう盛りを過ぎて、ウバ桜ならぬ姥梅で婆さんの厚化粧を見るような感じとなり、近くに咲いていた桃のほうが、ずっと爽やかに見えました。

この辺りに来ると気温も汗ばむくらいに上がり、喉も乾き腹もすいて来ました。昼飯には三島名物の大きな鰻の話が出ましたが、バスも来るような大はやりの店で、とても15人がすんなりと食べられるとは思えず、バイクという足が有るからと、沼津の方の店へ行くことになりました。国道1号線を走り有名な「柿田川湧水」の近くを左手に曲がって暫く行くと、かば焼きの匂いして来ました。ちょうど時分時で店が込み合い30分待ちとの事です。せっかく流れて来る匂い利用しようと思いをきかせたメンバーが、缶ビールをたくさん買い込んで来ました。においを嗅ぎながらビールを飲み、暖かい日差しを浴びて日向ボッコです。

お店に入ると待たせたからという訳か、大きな皿に一杯のアマ海老が出て来ました。嬉しい心遣いではありませんか。ウナギの方は「並ドンブリ」がかば焼き二枚乗せ(殆どのメンバーはこれ)、「上」は三枚乗せ(石川さん)、そして特上になるとナント四枚のウナギがドンブリからはみ出しています。鳥飼さんと吉野さんが注文しましたが、さすがに体の大きな鳥飼さんでも「いや〜しつこかった」といった案配でした。そんなに馬力をつけて鼻血が出ないかと心配しました。

これで今日は帰ろうということになり、他の人がガソリンを入れている間に私と鳥飼さんが「干物センター」に入りましたが、皆さんは帰り急ぎそのまま海老SAへ行ってしまい、私と鳥飼さんと二人で後を追いました。おいしい塩辛が有りました。走行距離280キロ、帰宅時間5時という初乗には最適なツーリングでした。幹事の石川さん、いろいろと御苦労様でした。